

インドの水から学ぶこと

光塩女子学院初等科 六年A組 星 里 梅

のどがかわいたら水を飲み手がよじれた

ら水であらう。この日常が当たり前でない

気がついたのは私が一年生のときだった。

父が出張でインドへいき半年ほどたつた。

ある冬休み父のもとへ母と出向いた。

現地につくと父が向かえに来てくれた。

た。久しぶりに会った父はいつものように

あたにかくとでも居心地が良かった。

2

インドで父がくらししている家につくとソ

フアード少し休んだ。そこは広くきれいな

でお掃除をして下さる方やレストランも

フアードいる立派なマンションだった。

少しリラックスしてからは私はお風呂に入

った。あたにかいシャワーを浴びながら体を

あらしめていたそのとき

つめたい!

とおもわず声を上げてしまった。そう、温かい

か。たはずのシャワーが急に冷たいお水に

変わったのだ。

後から聞いた話だと、日本よりも設備が悪く、温かいお湯はタンクに入る量しか使えないうだ。

驚くことは他にもあった。家族で観光をしていた時、小さな子犬を見つけた。かわいく、たくさんなでてしまいい。手が汚れてしまったので、外の水道水で手を流うことにした。普投と同じように蛇口をひねった。しかし、手をあらうことをあきらめた。なぜなら、その

4

のとき出てきた水は、酷くにじり、おり、とてもあらう気にはならなかった。だからだ。その日はしかたなく、もっていた除菌タオルで手をふいた。

蛇口から出てくる水が茶色にじり、いることがあまりにも衝撃的だ。家に帰って、から水道水についてすぐに調べた。すると、安全で飲むことのできる水道水である国が、日本を含めて九ヶ国しかないということがある。た。思った以上に少ない。私はたまたま日本

に生まれて恵まれていた環境にいたるが、もしもインドに生まれていたら、どんなに苦しいのだらうか。そう考えて、私は「水」という資源を守らうと考えた。

くわしく調べてみると、インドを合わせたたぐいの国に水道管がないということも分かった。また、そのことが原因で六億六千三百万人のぼろ人たちが池や湖、整備されていない井戸などからにごった水をくんで生活し、不衛生な環境や汚れた水を飲み、毎日八百人

もの方が命を落としていることも知った。だから、すべての国の人々が安全な水を使える世界をつくるために、自分でできることから実行しようと考えた。

まず、普段の日常から、水の無駄使いを減らすことを意識した。シャワーの時間を短くする。歯磨きや手あらいのときに水を出しっぱなしにしない。フライパンの油はとり除く。トイレの水を流すとき、レバーを使い分ける。入浴したあと、髪の毛をとり除く。そして

水道局で働いて下さっている方々への感謝を
忘れたいこと。

世界に安全な水をとけるためにどんな
心がけが出来るだろうか。きっとまだまだた
くさんあるはずだ。インドの水、そして世界
の水から学ぶこと✓